

△編集後記▽

「相愛国文」第十三号をお届けする。忌憚なきご批評を願うばかりである。

昭和二五年三月、相愛女子短期大学が設置認可され、国文科を置いてから半世紀の時が流れた。五〇年という節目に振り返りみる時、相愛の「国文」が、如何に様々な試みをしてきたのかに改めて思いを至すのである。現代文学をいち早く講義に採用したり、東京などから先生を集中講義にお迎えし、先端の研究成果を学生諸姉が学ぶ環境を整えていたり、枚挙にいとまがない。

来年度から国文学科も「日本語日本文学科」として再スタートする。ことは単に名称のみの問題ではない。学生数の減少による学生全入時代を迎える中で、様々な試みがなされていくが、そのことは相愛の国文学科の伝統を、良い意味で受け継ぐことになるだろう。伝統の継承としての新たなチャレンジ。その成果の発信する「場」として、この「相愛国文」を続けていきたいと願っている。

△執筆者一覧▽

橋本 雅之	本学国文学科助教授
鈴木 徳男	本学国文学科教授
山本 和明	本学国文学科助教授
鳥井 正晴	本学国文学科教授

相愛国文 第十三号

平成十二年三月二五日 印刷

平成十二年三月三〇日 発行

編集・発行 相愛女子短期大学国文学研究室

〒559-0033 大阪市住之江区南港中四丁目一

Tel 〇六一六六一二一五九〇〇(代)

印刷所 和泉書院

〒543-0002 大阪市天王寺区上汐五丁目三十一

Tel 〇六一六七七一―一四六七